



店主の体調不良と後継者不在で休業し、廃業の危機にあった豊後高田市の人気中華料理店「雲龍」が“復活”しました。

豊後高田の中華料理店

なじみの味 雲龍復活

【豊後高田】店主の体調不良と後継者不在で休業し、廃業の危機にあった豊後高田市新地の人気中華料理店「雲龍」が復活した。中華料理店で働いた経験を持つ臼杵市出身の宇都宮章平さん(29)が味を受け継ぐと名乗りを上げた。店主の安井善心さん(67)と二人三脚で調理場を切り盛り、独り立ちを目指して、修業に励んでいる。

善心さんは1985年に妻の辰江さん(68)と店を構えた。常連客が集まる店に育て上げたが、長年の立ち仕事でたたり左膝を痛めた。後継者を募ったものの、適任者は見つからなかった。3月末でいったん休業、人工関節を入れる手術を受けた。

廃業を考える中、後継者募集の新聞記事を目にした宇都宮さんから連絡があった。高校卒業後に専門学校で料理を学び、福岡市内の

中華料理店で6年近く働いた。帰郷後に料理教室を開いていたが、中華の世界で活躍したいと夢を抱いていたという。連絡後、すぐに店にやって来た宇都宮さんの熱意に打たれた善心さん。味を教えるためにテークアウトの営業を8月から始めた。宇都宮さんが調理後、善心さんが味をチェックして提供する。運営が軌道に乗り始めたことから11月に店内でのランチも再開した。

宇都宮さん(臼杵出身)後継に名乗り 独り立ちへ「努力」

① 廃業の危機にあった店が“復活”したのはなぜでしょう。

中華料理店で働いた経験を持つ臼杵市出身の宇都宮章平さん(29)が味を受け継ぐと名乗りを上げ、独り立ちを目指して修行に励んでいるから。

② 宇都宮さんが後継者になろうと思ったきっかけは？

後継者募集の新聞記事を目にしたこと。



宇都宮章平さん(左)に調理の指導をする安井善心さん(豊後高田市新地の雲龍)

善心さんは「真面目で料理の腕も申し分ない。退路を断ち、本気度が違う。常連客が認める味になったら、店の運営を全て任せる」と期待を寄せた。宇都宮さんは「一日でも早く独立できるように一生懸命努力し、安井さん夫婦

に薬してもらいたい」と必死に中華鍋を振っている。午前11時〜午後2時はランチタイム。同4時半〜6時半はテークアウトのみ。水、木曜は休み。問い合わせは雲龍(☎0978・240770)。(佐藤章史)

③ 店主の安井さんは、宇都宮さんに対して、どのような期待を寄せていますか？

「常連客が認める味になったら、店の運営を全て任せる」。

④ 宇都宮さんは「中華の世界で活躍したい」と夢を抱いていました。あなたはどんな仕事をしてみたいですか？